

1

今、なぜ「新たな地域コミュニティ組織」なのか

〈1〉今、中山間地域では一集落を取り巻く課題一

1 集落機能が低下し、集落減少が始まっています

- 本県の中山間地域は、急激な人口の減少が進み（人の空洞化）、その結果、担い手の不足による耕地面積の減少（土地の空洞化）が進んできました。
- 集落では、小規模化・高齢化が進み、また、地域を引っ張るリーダーが不足し、これまで集落単位で活動していた共同作業や、子ども会、青年団などの地域活動や伝統行事の実施や困難になるなど集落機能が低下しています。
- さらに、近年では、とうとう人が住まなくなった集落も出現し、集落自体が減少し始めるという深刻な事態となっています。（ムラの空洞化）

2 集落活動が停滞し、地域への愛着心も薄まっています

- これまでは、人々が共に支え合いながら、生産活動と生活を営んできましたが、近年の農林漁業の低迷や地区外への就労、生活様式の多様化などにより、生活や生産面でのつながりが薄らぎ、集落活動の停滞が生じています。
- また、若い人ほど、地域に住み続けたいという思いを持つ人が少なくなり、地域に対する「誇り」も弱まる傾向があります。（「誇り」の空洞化）
- しかしながら、地域が寂れることへのあきらめの一方で、みんなで話し合い、行動することの重要性を指摘する人も存在します。

3 これまでの地域づくりは、どちらかといえば行政主導型でした

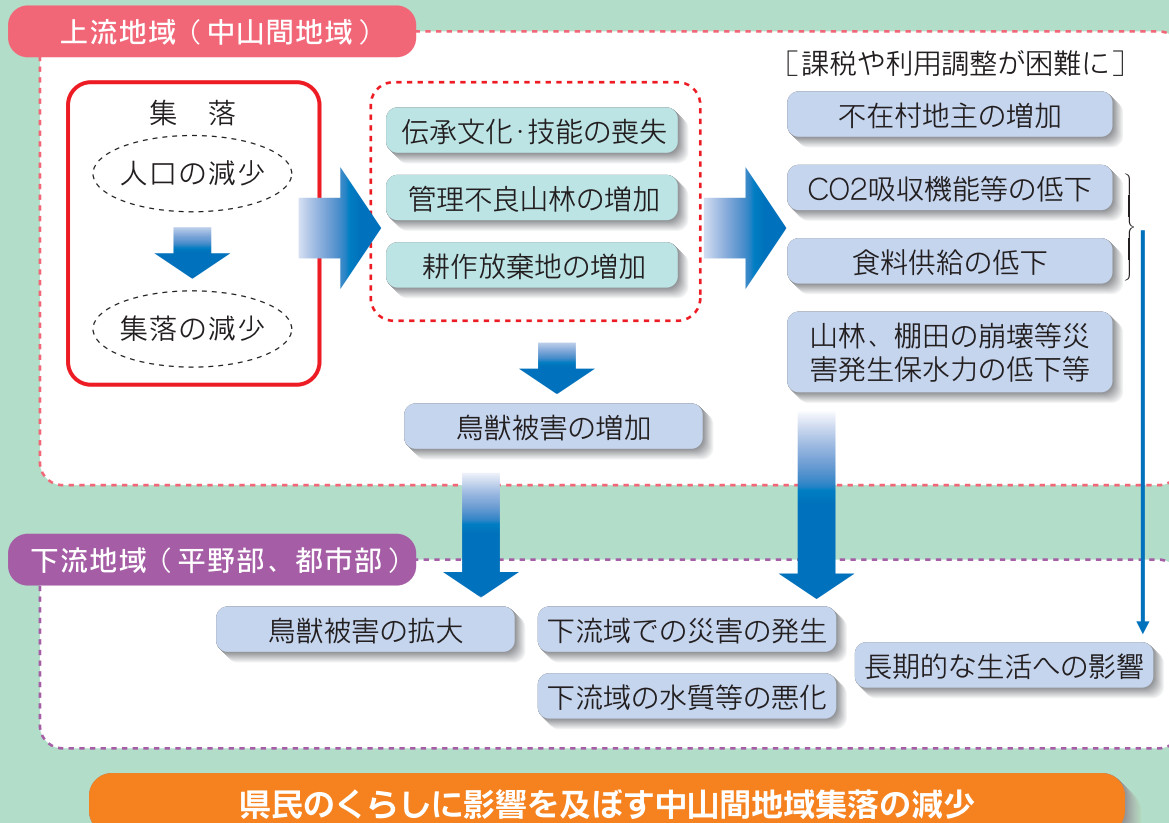
- 地域、集落には各種の組織や役職があり、行政施策の関連で組織化されたものも多く、縦割りで運営されている傾向があります。また、地域の課題も多様化する中で、一律に対応を求めることが困難になってきています。

4 市町村合併に伴い、周辺部の活性化は重要な課題となっています

- 本県のほとんどが「市+町村」という合併パターンであり、その結果、典型的な中山間地域を多く抱える旧町村の多くは、新市町の周辺部に位置することとなりました。周辺部の地域では、その声が届きにくくなるのではとの懸念が生じるとともに、新しい市町にとっては、合併を契機とした新たなまちづくりが求められています。

中山間地域集落の減少が及ぼす影響

中山間地域の集落の減少は、山林、農地管理の不良等を生じ、ひいては県民の生活に影響を及ぼします。

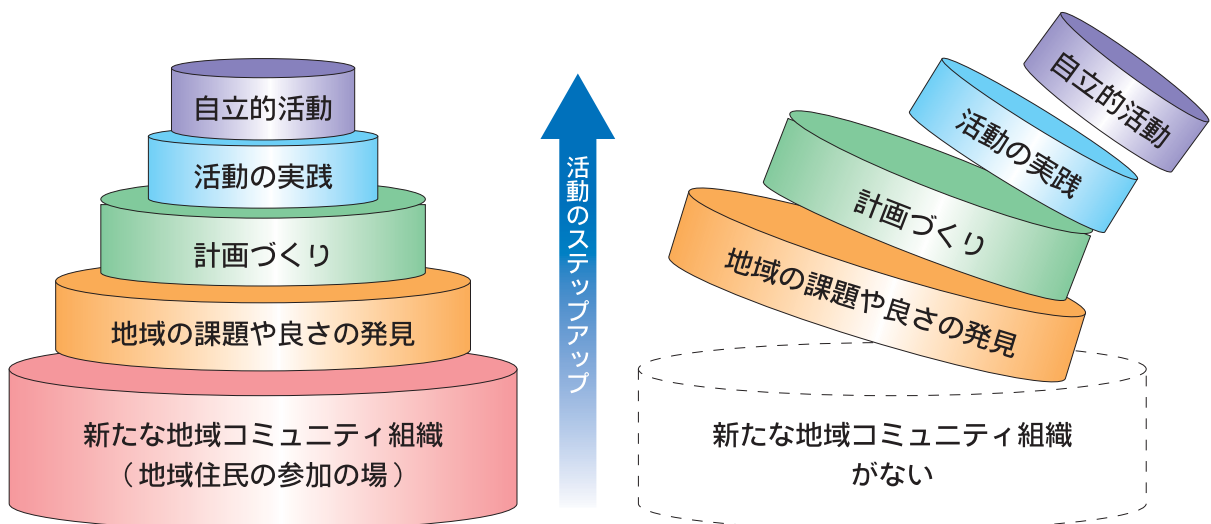


本ガイドブックでは、以下の「集落」の定義を活用しています。

- **過疎地域等における集落の状況調査（平成11年,平成18年）における「集落」**
一定の土地に数戸以上の社会的まとまりが形成された、住民生活の基本的な単位であり、市町村行政において扱う行政区の基本単位
- **農林業センサスにおける「農業集落」**
市町村の区域の一部において、農作業や農業用水の利用を中心に、家と家とが地縁的、血縁的に結びついた社会生活の基礎的な地域単位のこと

〈2〉 地域課題を解決する組織づくりの必要性

- 地域社会は、個人、家族、グループ、団体、役所などの多くの主体が支え合い、つながりを持ちながら、共同体を形成しています。こうした「地域コミュニティ」のうち、最も小さな単位は集落であり、集落ごとに様々な地域活動が維持されてきました。
- しかしながら、今、中山間地域では、集落戸数の減少や高齢化により、伝統行事や冠婚葬祭、道普請などの共同作業が困難になるなど、集落機能が低下している地域も多くなっています。このため、単独では地域活動だけでなく、集落自体の維持が困難となる地域に対しては、これまでの集落の枠組みを超えて、広域的に集落の機能を支え合うような、「新たな地域コミュニティ組織」を創っていく必要があります。
- 新たな地域コミュニティ組織においては、住民をはじめ、様々な団体が協働・連携をしながら、地域をあげて、地域課題や地域の良さの再発見を行い、地域の将来計画づくりを行い、その実現に向けて、実践的な活動を行うことにより、自立と自覚と責任を持った取組となるように進めることが重要です。
- こうした取組は、多くの住民等が少しずつ理解を深めていく活動であるため、なかなか短期間では実現することは難しく、なかには、組織づくりから自立的な活動に到るまで数年～十数年を要することもあります。このため、集落機能の低下等基礎体力の落ちた中山間地域では、出来るだけ早く取り組む必要があります。



〈資料 中国地方中山間地域づくり協議会〉